

第9節 外国語

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- ・ 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（外国語編）及び埼玉県中学校教育課程編成要領等を踏まえ、外国語科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- ・ 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校の教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示した。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 外国語科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 学習指導について
- 3 内容のまとめ（五つの領域）ごとの目標
- 4 観点別学習状況の評価の観点について
- 5 内容のまとめ（五つの領域）ごとの評価規準を作成する際の手順と評価の実践への流れ
- 6 評価規準の設定
- 7 言語活動の扱いについて
- 8 振り返りについて
- 9 多様な評価方法について

第3 指導と評価の計画の作成と改善

- 1 単元計画の作成と改善の考え方
- 2 単元の指導と評価の計画例（事例1）「読むこと」
- 3 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の計画例（事例2）

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 学習指導と評価、改善の考え方
- 2 本時の学習指導案（展開部分）の事例（事例3）「聞くこと」（事例4）「話すこと [やり取り]」
- 3 学習指導案の事例（事例5）「書くこと」

第5 外国語科における学習評価への総括例

指導計画作成の留意事項
編成要領（編P 140）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。
(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点
(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点
(3) 「教科等横断的」な視点
(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
(5) 「道徳教育の充実」の視点

3 本資料の活用にあたって配慮すること

3-1 学校段階間の接続を図ること

指導と評価の計画の作成に当たっては、小学校の外国語活動・外国語及び高等学校における指導と評価の計画との接続に留意する必要がある。

3-2 指導計画に即した評価を行うこと

各学校で作成した指導計画に即して行う適切な評価を、学習過程の改善・充実を図る一連のサイクルの確立につなげる。

3-3 学校、家庭及び地域の実態に合った指導計画を立てること

各学校の学習環境や地域の教育資源を活用するなど、カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、指導と評価の計画を作成するように留意する。

4 学力・学習状況調査等の活用

埼玉県学力・学習状況調査から「学級経営」がうまくいっているほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすく、「非認知能力」、「学習方略」を向上させ、結果として児童生徒の学力を伸ばすことにつながっていることがわかってきている。また、外国語科では、「互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動」を重視し、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させることで、言語活動の実質化を図ることが求められる。本資料では、この考えに基づき言語活動の扱いに触れるとともに、事例を掲載した。

第2 外国語科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

外国語科で育成を目指す資質・能力を「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。これらの資質・能力を、見方・考え方を働かせ、言語活動を通して育成することが求められている。(表1)

外国語の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 学習指導について

2-1 外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせる指導について

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、コミュニケーションの中で物事を捉える視点や考え方である。外国語で互いに考えを伝え合うためには、単に語彙や文法などの知識を身に付けただけでは不十分である。コミュニケーションにおいて、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、相手に十分配慮したりすることが重要であり、目的や場面、状況等に応じて、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築することが重要である。

(図1)

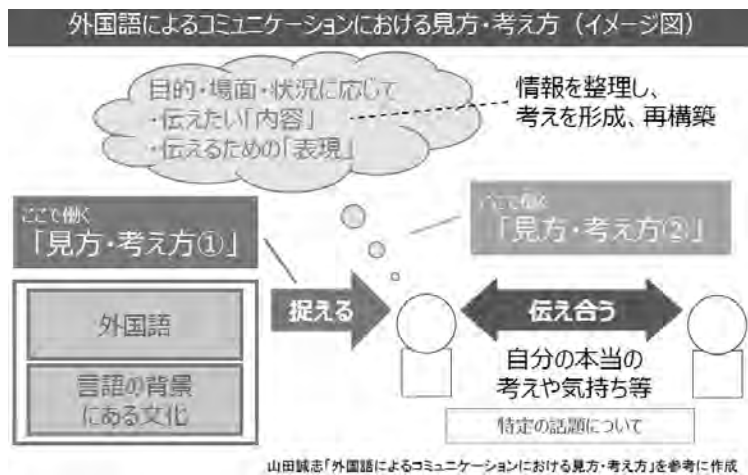


図1で示した「見方・考え方①」を働かせる上で重要なこととして、新しく学ぶ言語材料を、当該言語材料が使用される場面の中で、その言語材料の使い方(当該言語材料を使うと何ができるか)を捉えることができるようにすることが挙げられる。言語材料を導入する際に設定される場面が、真に当該言語材料を使用するにふさわしい自然な場面となっているかについて改めて確認することが重要である。

図1で示した「見方・考え方②」を働かせる上で重要なことは、表現

する「内容」と「英語」のどちらも生徒に思考・判断させるということである。言語活動を行う中で生徒が思考する機会を与えるためには、言語活動の前に教えすぎないという考え方が重要である。目的や場面、状況等を設定し、言語活動に取り組みせ、その後必要な指導を行い、再度言語活動に取り組みせるといった指導過程で授業を行うことが必要である。この過程による指導では、言語活動の後の指導を意図的に行うことも重要である。内容のやり取りを大切にしながら、使用させたい言語材料を使用できていたか、自分の表現したいことを文構造の知識を活用して正しい文で表現できていたかなどに関する指導を、継続的に行っていくことが必要である。

2-2 「主体的・対話的で深い学び」の実現を視点とした授業改善について

資質・能力の育成や生涯にわたる学びにつながる意味のある学びとするために「主体的・対話的で深い学び」の視点から、以下のような不断の授業改善が求められている。

2-2-1 「主体的な学び」の視点

- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定し、課題解決の方向性について見通しを立てたり学習を振り返ったりして、自己の変容を自覚できる場面を設ける。
- ・ 生徒が興味関心を持つことのできる題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりして学習への動機づけを図る。
- ・ 効果的に言語活動を展開するために、必要に応じて言語材料について理解を深めたり、練習したりする場面を設けることで、その後の活動への取組に対して見通しをもたせる。

2-2-2 「対話的な学び」の視点

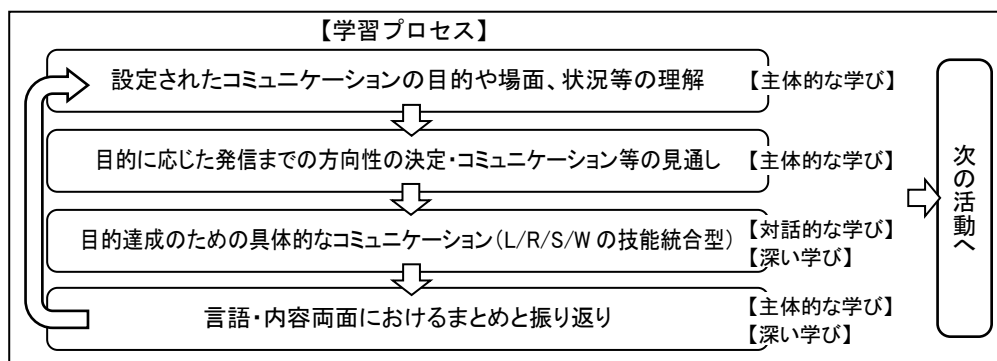
- ・ 他者と情報や考えを伝え合う必然性のある課題を設定する。
- ・ 他者を尊重しながら対話をしたり、他者の考えに触れて自らの考えを広げたり深めたりする活動を設定する。

2-2-3 「深い学び」の視点

- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定した上で、課題を見いだして解決策を考えさせたり、「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力を発揮させたりする。
- ・ 新たに習得した知識や既存の知識等を活用し、相互に関連付けて理解を深めさせ、技能をより確実なものにさせる。

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

(図2)



外国語教育においては、図2のような学習プロセスを単元や授業に位置付けることで、「主体的・対話的で深い学び」を推進することができる。

3 内容のまとめ (五つの領域) ごとの目標

外国語科において、内容のまとめとは、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の五つの領域を指す。五つの領域別の目標の記述は、資質・能力の三つの柱を総合的に育成する観点から、それぞれを三つの柱に分けずに一文ずつの能力記述文で示している。単元の目標を設定する際にも、当該単元を通して、どのような力をつけるかを能力記述する。その上で、単元で育成すべき資質・能力を明確にするために、三つの柱に分けた目標を記述する。

(表2)

内容のまとめ	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
聞くこと	ア はっきりと話されれば, 日常的话题について, 必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば, 日常的话题について, 話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば, 社会的な話題について, 短い説明の要点を捉えることができるようにする。		
読むこと	ア 日常的话题について, 簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的话题について, 簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について, 簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。		
話すこと [やり取り]	ア 関心のある事柄について, 簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的话题について, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて, 考えたことや感じたこと, その理由などを, 簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。		

話すこと [発表]	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

4 観点別学習状況の評価の観点について

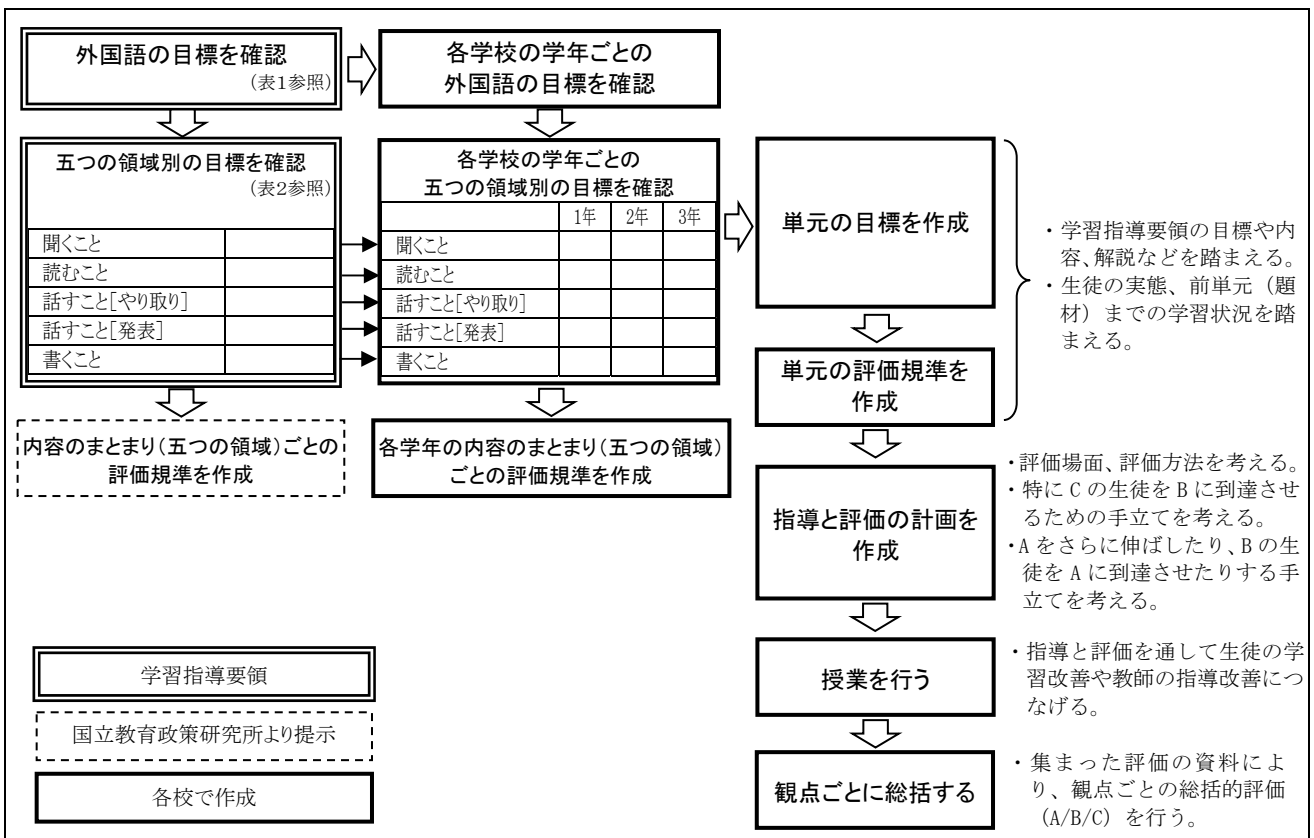
(表3)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
留意点	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。 特に、英語使用の正確さを評価する。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。 内容面の適切さを評価する。その際、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等が適切さを判断する基準となる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするための粘り強い取組の中で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。 一定の学習を経たのちに、基本的には思考・判断・表現と一体的に評価する。

5 内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準を作成する際の手順と評価の実践への流れ

学習指導要領や国立教育政策研究所から例示されている資料等に基づき、下記の手順で評価規準を作成する。

(図3)



6 評価規準の設定

以下に、単元や本時の評価規準を作成する段階での、評価規準の設定例を示す。

「読むこと」の評価規準の設定例

(表4)

	基本的な形	基本的な形に代入した例	留意点
知識・技能	<p><知識></p> <p>【言語材料】の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p>	<p><知識></p> <p>時間の経過を表す語句の意味や働きを理解している。</p>	<p>・【言語材料】当該単元で扱う言語材料が入る。「○○を用いた文の構造を理解している」「○○の意味や働きを理解している」などに適宜置き換える。</p>
	<p><技能></p> <p>【言語材料】などを活用して、</p> <p>【話題】について</p> <p>【書かれた文等】の内容を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p><技能></p> <p>時間を表す語句などの意味や働きの理解を基に、</p> <p>歴史上の人物の人生について、</p> <p>書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>・【話題】当該単元を中心とする言語活動で扱う話題等が入る。</p> <p>・【書かれた文等】テキストの種類が入る。「○○について書かれた文章」「広告」「物語」「メール」「手紙」などが考えられる。</p>
思考・判断・表現	<p>【目的等】するために、</p> <p>【話題】について</p> <p>【書かれた文等】を読んで、</p> <p>【読み取る内容】を捉えている。</p>	<p>文章の大まかな流れを時間軸に沿って書きまとめるために、</p> <p>歴史上の人物の人生について</p> <p>書かれた文章を読んで</p> <p>概要を捉えている。</p>	<p>・【目的等】当該単元を中心とする言語活動において設定する目的や場面、状況を「○○に応じて」「○○するように」「○○するために」などの形に当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。</p> <p>・【読み取る内容】ねらいによって「必要な情報」「概要」「要点」のいずれかが入る。</p>
	<p>【目的等】するために、</p> <p>【話題】について</p> <p>【書かれた文等】を読んで、</p> <p>【読み取る内容】を捉えようとしている。</p>	<p>文章の大まかな流れを時間軸に沿って書きまとめるために、</p> <p>歴史上の人物の人生について</p> <p>書かれた文章を読んで</p> <p>概要を捉えようとしている。</p>	<p>・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている様子については、特定の領域・単元だけではなく、長期的に評価する。</p>

<代入する事項>

【言語材料】については、学習指導要領で扱う「文、文構造、文法事項」から当該単元で扱う言語材料が入る。【話題】【目的等】【書かれた文等】については、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。【読み取る内容】はねらいによって「必要な情報」「概要」「要点」のいずれかが入る。

※埼玉県教育委員会のホームページに、すべての領域、観点についての評価規準の設定例を掲載している。

7 言語活動の扱いについて

学習指導要領の外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の活動を意味する。したがって、言語材料について理解したり練習したりする活動とは区別される。言語活動を行う際には、生徒の実態・関心等を十分に踏まえるとともに、小学校での経験を踏まえて行うことが重要である。言語活動を効果的に行うために、ICT機器を活用したり、題材について、他教科等で学習したことを活用したり、学校行事と関連させたりするなど、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた工夫が考えられる。また、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う際には、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語の使用場面等を意識できるよう留意する必要がある。

8 振り返りについて

授業中の観察に加え、単元の途中段階や単元の終末に行う振り返りを併用することで、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の観点における、学習に粘り強く取り組む側面や、自己の学習を調整しようとする側面を、より一層深く見取っていくことが大切である。また、振り返りカードの記載内容を点検・分析することで、教師は、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、さらには、学校における教育活動を組織として改善することができる。また生徒は、自身の学習改善につなげることができる。

振り返りを行うにあたっては、何ができた／できなかったのかを自覚させたり、その理由を考えさせたりするなど、振り返りの視点を与えるなどの工夫が必要である。また、振り返りとして記述されていることが実際に態度となって表れているかなどを見取ることも大切である。

活動への取組を振り返ろう	
<input type="checkbox"/> 自分にとって大切なものが伝えられましたか。 <input type="checkbox"/> 相手が理解しやすいように使う表現を工夫しましたか。	言語活動への取組を振り返り、次の課題を考えることができている。
<input checked="" type="checkbox"/> Xモばかり見えてしまって、あまり相手のことを見ながら話すことができなかった。次は相手を見ることを考えたい。	記述から、取り組みへの態度の変容が読み取れるが、同時に、実際に態度として表出しているかを見取ることが大切である。
<input type="checkbox"/> 相手が理解しやすいように、伝え方を工夫しましたか。 <input type="checkbox"/> 話の内容のまとめや、話の流れを意識して相手に伝えることができましたか。	
<input checked="" type="checkbox"/> 前回よりも顔を上げて、相手を見ることができました。伝わっているかどうか少し分かる気がした。次もがんばりたい。	

振り返りカードを活用して生徒の態度の変容を見取る例

9 多様な評価方法について

学習評価は、資料を集積していくことで、その生徒の実態を適切に評価することができる。実施に当たっては、多様な評価方法から適切なものを精選して行う必要がある。以下に評価方法の例を示す。

評価方法の例

(表5)

評価の観点	方法	評価内容等
知識・技能	パフォーマンステスト	パフォーマンス課題における英語使用の正確さ
	ワークシート	言語活動で使用したワークシートへの記述内容（英語使用の正確さ）
	活動観察	言語活動での英語使用の正確さ
	ペーパーテスト	英語使用の正確さを評価する問題
思考・判断・表現	パフォーマンステスト	パフォーマンス課題で設定された目的や場面、状況等での、英語使用における内容面の適切さ
	ワークシート	言語活動で使用したワークシートへの記述内容（内容の適切さ）
	活動観察	言語活動での英語使用における内容の適切さ
	ペーパーテスト	英語使用における内容の適切さを評価する問題
主体的に学習に取り組む態度	パフォーマンステスト	課題解決等に取り組む態度
	振り返りカード	記述内容の分析（粘り強い取組や自己調整の様子、取組の変容など）
	ポートフォリオ	言語活動の記録から生徒の変容を分析
	活動観察	言語活動においてよりよく伝えようとする工夫等、相手への配慮の様子 振り返りの記述内容が活動への取組に表出している様子
	ワークシート	言語活動で使用したワークシートへの記述内容
感性、思いやりなど	個人内評価	観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒の一人一人のよい点や可能性、進捗の状況について評価

English Reflection Sheet	
Class (-) No. () Name ()	
単元の目標 適切な表現を選択し、論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう、自分にとって大切なものについて、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	
目標の設定	自己目標を設定しよう <input type="checkbox"/> これからの学習で、さらにできるようになりたいことは何ですか。 <input type="checkbox"/> 自己目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか。
	活動への取組を振り返ろう <input type="checkbox"/> 自分にとって大切なものが伝えられましたか。 <input type="checkbox"/> 相手が理解しやすいように使う表現を工夫しましたか。
学習と活動の振り返り	<input type="checkbox"/> 相手が理解しやすいように、伝え方を工夫しましたか。 <input type="checkbox"/> 話の内容のまとまりや、話の流れを意識して相手に伝えることができましたか。
	<input type="checkbox"/> 相手が理解しやすいように、伝え方を工夫しましたか。 <input type="checkbox"/> 話の内容のまとまりや、話の流れを意識して相手に伝えることができましたか。
	<input type="checkbox"/> 相手が理解しやすいように、伝え方を工夫しましたか。 <input type="checkbox"/> 話の内容のまとまりや、話の流れを意識して相手に伝えることができましたか。
単元の振り返り	目標達成への取組を振り返ろう <input type="checkbox"/> この単元の学習のできるようになってきたことは何ですか。 <input type="checkbox"/> なぜできるようになったと思いますか。どんな努力や工夫をしましたか。

- 目標の設定 (A)
 - ・これまでの学習の取組を振り返って、本単元での目標を設定させる。
 - ・個々の目標を単元での形成的評価にも生かし、指導改善につなげる。
- 学習と活動の振り返り (B)
 - ・目標への達成度を見取るパフォーマンステストに向けて、単元の中で、パフォーマンステストと同様の言語活動を複数回設定し、形成的評価を重ねていくことが考えられる。振り返りについても、毎時間必ず行うのではなく、このような言語活動の機会をとらえて活動への取組を振り返らせる等、振り返りを行う時期や頻度についての工夫が考えられる。
 - ・単元目標から振り返りの視点を設定する。また、回数を重ねる中で、振り返りの視点を工夫し、目標が達成できるように支援する。
 - ・記述した内容のみで評価するのではなく、その内容が、活動等の中で態度となって表出しているかを見取っていくことが大切である。
- 単元の振り返り (C)
 - ・どのような取組が自己の学習に効果的であったかを振り返る機会をつくる。

第3 指導と評価の計画の作成と改善

1 単元計画の作成と改善の考え方

- (1) 単元の指導計画の作成に当たっては、本単元で目指す生徒の姿（以下、「ゴール」）を明確にし、ゴールから逆算した（バックワード・デザイン）1単位時間ごとの目標を設定し、言語活動を組み立てていく。

単元計画作成のイメージ

(図4)

	1	2	3	...	単元の終末
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標の理解 題材についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の言語材料についての深い理解と習熟 題材についての内容理解及び自己の考えの深化 			<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成度の見取り
授業展開の考え方	<p>【帯活動】 単元を通して身に付けるべき資質・能力を育成するために、様々なアプローチで、短時間の活動を毎時間、継続的に行う。</p>				
	<p>【題材についての理解】 ・題材と生徒を近づけ、レディネスを高めるとともに、学習の見通しをもたせる。</p>	<p>【資質・能力の育成を目指した言語活動と指導】 ・言語活動をととして、言語材料および題材についての理解を深める時間をスパイラルに組み立てる。</p>			<p>【目標の達成度を見取る活動】 ・パフォーマンステストや実際のコミュニケーションの場面を想定したタスク活動など、多様な評価方法から、目標の達成度を見取るために適切な方法を選択し、評価を行う。</p> <p>タスク活動とは… 英語を用いて、与えられた課題を解決することを目的として行う活動。意味のやり取りに重点が置かれる。</p>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 題材の背景にある文化について関心を持たせる。 他教科との関連を踏まえ、背景知識等を想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指した言語活動を展開する。その際、コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確に設定する。 目的に応じたコミュニケーションのプロセス（図2参照）を意識して、計画を作成する。五つの各領域の言語習得における特性を踏まえる。 五つの領域にわたる活動を、できるだけ有機的に関連付ける。 記録に残す評価を行わない時間も、生徒の学習状況の把握に重点を置き、その後の指導に生かす。 			<ul style="list-style-type: none"> 当該単元における新出言語材料にとどまらず、既習の言語材料を総合的に活用する活動を設定する。

- (2) 単元の評価計画の作成に当たっては、単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場面を精選するように留意する。また、学習評価の方針を事前に生徒と共有する場面を必要に応じて設けることは、妥当性や信頼性を高めるとともに、生徒自身に学習の見通しを持たせる上で重要である。
- (3) 単元の指導計画においては、日々の授業における生徒の学習状況を適宜把握することにより、指導方法等を見直し、指導の改善を図りながら進めていくことが重要である。
- (4) 年間指導計画では、以下のように表記することもできる。

配当時間	課	単元	単元目標	主な活動例	評価			主な言語材料	小学校・他学年及び他教科等との関連	
					知技	思考	態度			
8	1	A History of Vegetables	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどしながら伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話文やスピーチ原稿を読んだ後に、ペアやグループで考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどしながら伝え合う。 ペアで話した内容を踏まえて自分の考えなどを書く。 	や	書	書	書	受け身(過去) 現在完了形・完了	<社会(地理分野)中1> 南アメリカ、ヨーロッパ、アジア

2 単元の指導と評価の計画例

＜事例1＞ 「スパイラルに活動を設定することで単元目標に迫ること」をねらった事例
 第1学年 「家族や友達を紹介しよう」 読むこと ア

(1) 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項等

読むことを中心とした単元であるが、他の領域の活動を通じて多くの英語にふれさせる。読み取った情報をもとにして、生徒一人一人が「ALTの兄弟に提案する最適な日本観光プラン」を考える活動を設定することで、読むことに対する必然性をもたせる。活動をスパイラルに仕組み、単元の後半に向けて読むことの活動を充実させることで、単元の目標に迫るように工夫している。

(2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等

紹介文の中から課題解決に必要な情報を読み取ることで、「ALTの兄弟に提案する最適な日本観光プラン」を考えることができるため、生徒がどうしてそのプランを立てたのか、その根拠となった情報を示すことができるかをとおして、目的に応じた適切な読み取りができているかを評価する。ただし、本単元では読むことを主な目標としているため、表現の正確さについては形成的評価にとどめ、他の単元等で改めて記録に残す評価の機会を設定する。

(3) 評価に基づく改善のポイント

根拠となる情報を英語で伝えることで、適切に読み取ることができているかを見取るため、生徒が英文を理解する段階でつまづいているのか、表現の段階でつまづいているのかを分析し、適切なフィードバックを行う。表現する際の正確さについては、生徒の学習状況を把握し、今後の単元における指導に生かす。また、本文の内容を十分に理解し、それを根拠としてALTの兄弟に提案する観光プランを考えられている生徒の例を全体で共有し、他の生徒が主体的に自身の学習の成果を振り返ることができるようにする。

(4) 単元の評価計画の実際

○ 単元の目標

読み取った情報を活用して自分の考えが述べられるように、三人称単数が主語となる現在時制の文などを用いて書かれた英文の内容について、情報を整理しながら読み取ることができる。

- ・三人称単数が主語となる現在時制の文の特徴やきまりについての理解をもとに、複数の人物について述べられている文の内容を読み取る技能を身に付けている。＜知識及び技能＞
- ・他者に内容を正しく伝えるために、複数の人物について触れられている英文から、必要な情報を捉えている。＜思考力、判断力、表現力等＞
- ・他者に内容を正しく伝えるために、複数の人物について触れられている英文から、必要な情報を捉えようとしている。＜学びに向かう力、人間性等＞

○ 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと (読)	[知識] ①三人称単数が主語となる現在時制の文の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] ②第三者についての英文の内容を正確に読み取る技能を身に付けている。	他者に内容を正しく伝えるために、複数の人物について触れられている英文から、必要な情報を捉えている。	他者に内容を正しく伝えるために、複数の人物について触れられている英文から、必要な情報を捉えようとしている。

○ 単元の指導と評価の計画（7時間扱い）

時	◆ねらい ○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	◆教科書の英文全体を通して聞き、概要や登場人物についての情報を捉える。 ◆単元の目標を理解する。				
	○本単元の題材に関するやり取りを行う。 ○教科書本文全体を通して聞き、概要を捉える。 ○登場人物についての情報を聞き取る。				◎評価規準<評価方法>
2	◆三人称単数が主語となる現在時制の文のきまりや特徴を理解する。 ◆教科書の英文を読み、登場人物の情報を確認する。				
	○三人称単数が主語となる現在時制の文の特徴等について確認する。 ○やり取りを通じて、本文の内容を確認する。 ○聞き取った情報を頼りに、教科書から登場人物についての情報を読み取る。				
3	◆教科書の登場人物について説明する。				
	○三人称単数が主語となる現在時制の文の特徴等について整理する。 ○教科書本文の音読活動を行う。 ○教科書の登場人物について説明する。				
4	◆三人称単数が主語となる現在時制の文などを用いて教科書の登場人物を紹介する文をつくり、その人物についてのやり取りをする。				
	○これまでの教科書の登場人物について、既習の単元の内容を読み返し、紹介する英文をつくる。				
5	◆読み取った英文の情報を整理する。				
	○教科書以外の英文を読み、その登場人物について情報を整理する。				
6	◆読み取った英文の登場人物について伝え合う。				
	○教科書以外の英文を読み、その登場人物について伝え合う。				
7	◆ALTの兄弟に最適な「日本観光プラン」を提案するために、ALTの兄弟についての英語の紹介文を、情報を整理しながら読む。				
	○ALTの兄弟についての紹介文を読む。 ○紹介文をもとに、ALTの兄弟が楽しめる日本観光プランを考える。		読	読	◎兄弟との観光プランをALTに提案するために、兄弟についての情報を読み取っている。
後日	ペーパーテスト		○		

題材についてやり取りを行うことで、題材を身近に感じさせるとともに、既習事項に触れさせる機会とする。ここでは、一般動詞や代名詞の he/she にたくさん触れさせるなどの工夫をして、単元の学習とのつながりをつくる。

ピクチャーカードの並べ替えなど、概要が捉えられているかを確認する活動を行う。大まかな内容から詳細な内容へという流れでリスニング活動を行う。

文法について整理した直後の活動では、言語形式を意識させて、正確な発話を意識させる。

生徒にとってなじみのある教科書の登場人物について、三人称単数が主語となる現在時制の文などを使って、人を紹介する文の練習をする。同時に、教科書を読み返す機会とする。

「評価についての考え方」
本單元において、第1時から第6時までは記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の状況を確実に把握し、指導に生かす見取りは毎時間必ず行う。活動をさせているだけにならないように十分に留意する。

○ ペーパーテスト例（主に「思・判・表」を評価する問題例）

次の英文は、Ms. King があなたに書いたメールです。Ms. King は今度来日する兄弟に緑市（Midori City）を案内しようと思っていますが、どこに行くのがよいか分からず、あなたにアドバイスを求めています。メールを読んで、みんなで行くのに最適な「おすすめスポット」を下の四つの中から1つ選び、その理由も含め日本語で答えなさい。

Hello. I need your help today.

I have two brothers, Bob and Mike. They have a plan for a trip to Midori City. They're interested in Japan. Please think of a good plan for them. Do you know a good place for my brothers?

Mike is interested in Japanese culture, like fashion and *anime*. But he doesn't like Japanese food. He loves hamburgers. And he likes music and plays the guitar very well. He often listens to Japanese music.

Bob likes sports. He is on the soccer team at his school and he is a good player. And he likes video games. He is interested in Japanese video games. He likes *sushi* very much.

<緑市 (Midori City) のおすすめスポット>

1. Midori ショッピングモール
- ・日本で人気の洋服が手に入る
 - ・様々な種類のレストランもある
 - ・スポーツ体験施設や CD ショップもある

2. 緑市立図書館
- ・日本のマンガがたくさんある
 - ・日本のアニメ DVD も見られる
 - ・近くに有名なハンバーガー店がある

3. Midori アミューズメントパーク
- ・日本の映画がみられる
 - ・テニスや卓球もすることができる
 - ・たくさんの種類のゲーム機がある

4. 緑フラワーガーデン
- ・季節の花を楽しむことができる
 - ・バーベキューも楽しむことができる
 - ・有名な寿司屋がある

自分のおすすめする施設：()
 その理由：()

当該のペーパーテストを以下のように評価することが考えられる。

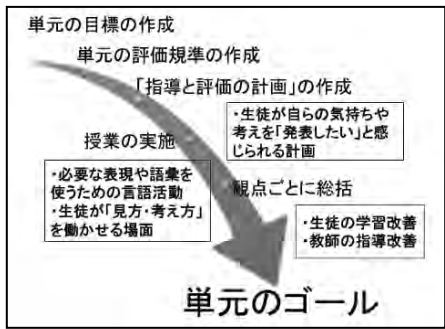
	「思・判・表」の評価結果
二人の条件に当てはまる場所を、その理由を含めて提案することができる	a
二人の条件に当てはまる場所を提案することができるが、理由が部分的に足りていない	b
「b」を満たしていない	c

3 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の計画例

<事例2> 「学習活動と振り返りの記述で見取る『主体的に学習に取り組む態度』の評価」の事例
 ※本事例は、単元を通して学習活動の「振り返り」を意図的・計画的に行うとともに、生徒の変容を見取ること、「主体的に学習に取り組む態度」を評価し、指導に活かしていく実践である。

(1) 単元計画の作成に当たっての工夫、配慮事項

本単元のゴールとなる活動として設定した「身近な人紹介」についての発表を行うためには、必要な表現や語彙を使うことができるようになるための言語活動を段階的かつ統合的に設定する必要がある。生徒が、「見方・考え方」を働かせる場面があり、自らの気持ちや考えを主体的に「発表したい」と感じられる計画を立て、実践することで、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」を評価する。



(2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

観点別学習評価については、毎回の授業ですべてを見取るのではなく、単元や題材等のまとまりの中で、指導に応じた評価の場面を適切に設定することが重要である。さらに、その実践に向けて段階的に設けた各活動を通して、学習過程における生徒の取組状況と生徒自身の振り返りの記述内容等から、主体的に学習に取り組む態度を見取る。また、「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と一体的に評価することができるという考え方から、「思考力、判断力、表現力等」を發揮させる言語活動において、相手に配慮しながらコミュニケーションを図っているかを見取る。

(3) 評価に基づく改善のポイント

「学びに向かう力、人間性等」は、時間をかけて育まれるものである。したがって、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時期は、単元終末や学期末等で行うパフォーマンステスト等が基本となる。そこに向けての学習過程において、生徒一人一人の学習状況を丁寧に把握し、指導改善につなげる。なお、評価に当たっては、多様な評価方法からその場面における生徒の学習状況を適切に評価できる方法を選択して評価する。本単元では、生徒による振り返りの内容が、言語活動において実際の態度となって表れているかという点を評価の材料の一つとして、指導の改善に生かす。

(4) 単元の評価計画

時	◆ねらい ○活動	評 価		
		知・技	思・判・表	態度
1	<p>◆登場人物についての情報を理解し、絵を用いて、教科書の文章を引用しながら伝える。</p> <p>①登場人物になりきって兄弟の紹介文をイメージさせ、ペアで伝え合う。(自己紹介で学んだことを本単元へつなげる。)</p> <p>②スピーチを聞いたり、読んだりして、三人称単数が主語となる現在時制の文における一般動詞の特徴を知る。</p> <p>③再度、スピーチを読み、教師とのやり取りを通じて、登場人物を紹介するために必要な情報を整理する。</p> <p>④絵を用いて、登場人物についてペアで紹介し合う。</p>			◎評価規準<評価方法>
				<p>単元の開始時においては、「単元の目標設定」と「目標達成のための工夫」の二つの視点から振り返りをさせる。</p> <p>終末の言語活動をイメージさせて、単元の学習に対する見直しをもたせるとともに、意欲を高める。教科書の人物を紹介する活動を通して、「身近な人紹介」につなげていく。</p>
2	<p>◆登場人物についての追加情報を読み取り、絵を用いて、教科書の文章を引用しながら伝える。</p> <p>①教科書の対話を聞いたり、読んだりして情報をペアで伝え合う。</p> <p>②対話文中で使われている未知の語の意味や主語が三人称の時の疑問文の構造を理解する。</p> <p>③絵を用いて、登場人物についての追加情報を交えて、聞き手の興味を引くように、ペアで人物紹介を行う。</p>			◎評価規準<評価方法>
				<p>より多くの情報を含む人物紹介ができるように前時の活動をつなげる。</p> <p>振り返りの記述から、モデルとなる例を紹介し考え方を広め、漠然とした目標しかもてない生徒の変容を促す。目標達成の工夫について、互いに学び合う機会をつくる。</p>
3	<p>◆登場人物についての追加情報を読み取り、絵を用いて、教科書の文章を引用しながら、聞き手の興味を引くように伝える。</p> <p>①登場人物についての新しい情報を読み取り、ペアで伝え合い、対話文中で使われている未知の語の意味や主語が三人称の時の否定文の構造を理解する。</p> <p>②前時の内容も踏まえて、否定文を交えて登場人物を紹介できる情報を探し、ペアで共有する。</p> <p>③前時まで得た情報を整理し、絵を用いて、聞き手の興味を引くように疑問文等を用いながら、登場人物についてペアで伝え合う。</p>			◎評価規準<評価方法>
				<p>本単元において、第1～3時は、記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の状況を確実に把握し指導に生かす見取りは毎時間必ず行う。</p> <p>登場人物を紹介する活動を通して、第三者について英語で伝えるための表現が身につけているかを見取り、生徒の学習状況に応じて指導の改善を図る。</p>
4	<p>◆教科書の登場人物についてのクイズを作ったり、英語で答えたりする。</p> <p>①教師が登場人物についてのクイズを出題し、英語で答える。</p> <p>②既習の疑問文を用いて、登場人物についてグループでクイズを出し合い、できるだけ詳しく英語で答える。</p>			◎評価規準<評価方法>
				<p>一問一答にらずに、できるだけ詳しく情報を伝えようとしているか。</p>
5	<p>◆自分のお気に入りの教科書の登場人物について英語で紹介する。</p> <p>①教科書を読み、自分のお気に入りの登場人物についての情報を整理する。</p> <p>②教科書の表現を参考にして、お気に入りの理由が伝わるようにグループで伝え合う。</p>			◎評価規準<評価方法>
				<p>教科書や友達が使っている表現を参考にして、自己調整を図ることができるよう指導を行う。</p>

6	◆自分の身近な人の魅力が聞いている人に伝わるように英語で伝える。			発	発	「活動の中で、相手（聞き手）を意識した様子が見られるか」「振り返りに書かれてきたことが、言語活動において実際に態度となって表れたか」という視点で見取る。
	①伝えたい人物についての情報を整理する。 ②既習の表現を用いて、身近な人の魅力をグループ内で伝え合う。 ③既習の疑問文を用いて、それぞれが紹介した人物について質問し合う。					
後日	パフォーマンステスト	発	発	発		

○ パフォーマンステストの例

※パフォーマンステストは、学期に一度だけでなく、課題を変えて複数回実施することで、より適切な評価をすることができる。

【指示文】

ALTに「私の学校にいる自慢の人」を紹介します。その人の魅力についてよく知ってもらうために、何を伝えたらよいか考えて人物紹介をしてください。また、ALTからの質問にできる限り詳しく答えてください。

【採点基準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話している。	紹介する人物の魅力が伝わるように工夫して情報を伝えている。	紹介する人物の魅力が伝わるように工夫して情報を伝えようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話している。	紹介する人物についての情報を伝えている。	紹介する人物についての情報を伝えようとしている。
c	[b]を満たしていない。	[b]を満たしていない。	[b]を満たしていない。

「主体的に学習に取り組む態度」（以下、「態度」）は、「思考・判断・表現」（以下、「思・判・表」）と基本的には一体的に評価するという考え方により「思・判・表」が「c」ならば、「態度」も「c」となると考えられる。しかし、「思・判・表」が「c」であっても、「態度」が「b」となる場合もある。例えば、以下の①及び②を満たした場合、「態度」が「c」ではなく「b」となることが考えられる。

①振り返りの中で、以下のような、生徒の変容（自己調整を図ることができている様子）を見ることができる。

- ・教科書の英文を参考にして、自分の伝えたいことが英語で伝えられるようになってきた。
- ・授業の時に友達は、相手に伝わるように顔をあげてはっきりと話していた。自分も次は見習いたい。
- ・ALTからの質問がよくわからずに黙ってしまった。今度からは、聞かれたことの意味を確認したい。

②振り返りに記述されている内容が、言語活動等で実際に態度となって表れている。

※実際に態度として表出されていることが重要であり、振り返りの記述内容によって評価を変えることはしない。また、振り返りに具体的な記述がなくても、生徒の変容を見ることができれば、[b]となり得る。

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 学習指導と評価、改善の考え方

- (1) 本時の学習指導に当たっては、指導者は本時のねらいを十分に理解するとともに、コミュニケーションの目的や場面、状況等を十分考慮した上で学習活動を設定する。また、前述の学習プロセスを授業に位置付けることを意識するとともに、言語習得の特性等を踏まえ、「聞くこと」等によるインプットを十分に行ってから、徐々に「話すこと」等のアウトプットに移行するような学習展開になるよう配慮する。
- (2) 本時の評価に当たっては、活動の観察やパフォーマンス評価など、多様な評価方法から生徒の学習状況を適切に評価できる方法を選択して評価するようにする。また、本時の授業内の評価だけでなく、単元全体を通して生徒の学習状況を評価するよう留意する。単元における本時の位置づけによっては、記録に残す評価（総括的評価）を行わない場合もあり得るが、生徒の活動の状況を把握し、必要な指導を行うなどの形成的評価を確実に行うことが重要である。

- (3) 本時の評価結果を基に、指導方法等を改善し、生徒の学力の育成に結び付けられるようにする。そのため、生徒の取組状況や学習内容の定着の度合いを適宜確認・把握して、指導計画の見直しや改善に生かし、授業改善につなげる。
- (4) 目標は、生徒を主語として「～できる」という能力表記で記述する。評価規準は、生徒を主語として「～している」という表記で、生徒が目標を達成している状況を記述する。

2 本時の学習指導案（展開部分）の事例

＜事例3＞ 「聞くことを中心とした各領域の有機的な関連」をねらった事例 第2学年 「海外でのホームステイ体験」聞くこと イ

- (1) 本時の学習指導案（展開部分）の作成に当たっての工夫、配慮事項等
他の国や地域の興味深い法律や習慣を調べ発表するという課題について、事前に情報収集をさせ、そのような法律や習慣がその地に根付くこととなった理由や背景等の整理・分析を行わせた後に発表原稿を英語で作成させる単元計画とすることで、探究のプロセスを意識させた学習活動になるように工夫した。
また、何のために書くのかという目的や、誰に向けて話すのかという相手意識をもたせ、複数の領域にわたる活動を有機的に関連させられるような統合的な言語活動を設定した。
- (2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等
特定の言語材料を使用することを課題の条件とした評価はしないが、単元の中で新たに習得した助動詞 must や should、既習である助動詞 can 等の言語材料を用いた方が伝えたい内容を適切に伝えられるため、教師によるモデリング等を通して、話す際にも聞く際にもそれらが重要であることを生徒自身に気付かせ、自然と言語活動の中で使用したくなるように工夫した。
また、本時は事前に学習者用 PC に記録したスピーチを聞き、その概要を聞き取ることを目標として、「知識・技能」の観点で記録に残す評価（総括的評価）を行う。その後、聞き取った内容を他者に伝える発展的な活動を設定しているが、これについては必要な指導を行うなどの形成的評価は行うが、本時内で記録に残す評価は行わないこととした。
- (3) 評価に基づく改善のポイント
本時は生徒が作成した原稿をもとにスピーチし、その概要を聞き取ることを評価するが、必ずしも言語的な正確性が高いスピーチばかりとは限らない。話し手が伝えようとしている内容を必要に応じて推量しながら聞き取ることも求められるため、スピーチ内容の前後関係から文脈を理解する力も育成できるよう指導を工夫するべきである。また、実際のコミュニケーションの場面を想定し、もし話し手の意向がわからない場合には、どのように相手に働きかけるべきか、即興的なやり取りの場面に設定を発展させるなどの工夫も考えられる。
- (4) 学習指導案（展開部分）の実際
指導案 7 / 7（1 単位時間の計画）
目標 助動詞 must などを活用して、他の国や地域の法律や習慣に関する情報について話された英文の概要を聞き取ることができる。
準備 学習者用 PC、ワークシート
○ 本時の展開（7 / 7）

過程	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価＜方法＞
復習 10分	1 ウォームアップ (1) あいさつ (2) 歌 “The Show Must Go On” 帯活動を本時の課題に関連させられるように指導を工夫する。 2 復習 “Geography”	・学習の雰囲気をつくる。 ・音声変化（同化・連結・脱落）に留意させる。 編 P216 指導計画作成の留意事項 ・mustなどを用いた教科等横断的な発問をする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">導入 8分</p>	<p>3 課題の確認 “Laws and Customs in Foreign Countries” (1) 本時の課題と目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>他の国や地域の法律や習慣に関する情報を聞き取ろう。</p> </div> <p>(2) 教師が作成したモデルスピーチを視聴する。 (3) モデルスピーチの概要を確認し、ペアでお互いに自分の言葉で表現し直す。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>編 P216 指導計画作成の留意事項</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と目標を分かりやすく提示する。 ・聞き取った内容を後で他者に説明し、さらに内容に関連したやり取りを行うことを確認する。 ・内容と共に助動詞がどのような意味で使われているか等、リスニングポイントを与える。 ・助動詞を使うことの有用性について考えさせる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開 22分</p>	<p>4 クラスメイトが調べた他の国や地域の法律や習慣に関するスピーチの聞き取りと情報共有 (1) クラスメイトのスピーチを聞き取る。 タブレット端末に記録されているスピーチについて、一人当たり2分30秒で話の概要を聞き取り、ワークシートに記録する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>よく理解できなかった部分を中心に繰り返し聞くように指導する。</p> </div> <p>(2) 情報をペアで共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>生徒の発話の様子を観察し、特に、言い淀んでいる内容や表現、言語面のエラー等に関してフィードバック（中間指導）を与えることを繰り返す。</p> </div> <p>(3) 伝達されたクラスメイトのスピーチを確認する。 (2)で得た情報について、それが記録されている学習者用PCへ移動し、その内容を自身で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎助動詞mustなどを活用して、他の国や地域の法律や習慣に関する情報について話された英文の概要を聞き取る技能を身に付けている。〈ワークシート分析〉 ・生徒を移動させるのではなく、学習者用PCを次の生徒へ手渡しさせる。 ・自身が聞いたクラスメイトの意見の中から1名を選び、パートナーに自身の英語で伝達させる。 ・インフォメーションギャップのあるペアを複数回作り、活動を繰り返すことでより多くの情報の受信と発信をさせる。 ・すでに他のパートナーから情報を聞いていた場合には、他のクラスメイトの情報について取り組ませる。 ・伝達された内容と自身が聞き取った内容について確認させる。 ・使用されている助動詞に注目させる。 ・全体の様子を見て、できるだけ多くのスピーチを聞けるよう座席移動を指示する。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ 10分</p>	<p>5 まとめ (1) モデル生徒の英文を再生する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・学習内容を自分事として捉えられるように、Personalization（自己関連性）の視点を与える。</p> </div> <p>(2) 助動詞を使って簡単な英作文をし、ペア等で確認する。 (3) 今後の取組について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの内容と効果的に使われている助動詞等について全体で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・共有することで、学習内容についての理解を促す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の言葉で説明し直させたり、どう思うかを考えさせたりする。 ・次回以降の活動に向けて意欲を喚起する。

3 本時の学習指導案（展開部分）の事例

＜事例4＞「実際に英語を使う中でフィードバックを工夫し、やり取りの質の向上」をねらった事例 第1学年 「日本と海外の学校の特徴を学ぼう」話すこと [やり取り] ウ

(1) 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項等

英語を実際に使う中で、「言いたいこと」と「言えること」のギャップを感じさせ、必要感をもってインプットに戻るといったサイクルをつくることで言語習得につなげる。また、授業内でのコミュニケーションが実生活のものに近づくよう、活動を行う際に目的や場面、状況等を明確に設定したり相手意識をもたせたりすることや、やり取りにおいて生徒の本当の考えや気持ちを引き出したりすることを意識する。さらに、小学校で触れた音声や言語材料に何度も触れられるようにインプットとアウトプットの場面を工夫したり、内容面と言語面の両面から丁寧にフィードバックをしたりすることで流暢さと正確さを少しずつ高めていく。あわせて、表現の言い換えなどにも焦点を当て、考えや気持ちを伝える表現の幅を広げることをねらう。

(2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等

本単元では、「話すこと」に焦点を当てるため、他の領域について、活動は行うが記録に残す評価はしない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に把握して指導に生かすことは毎時間行う。言語活動においては、指定された言語材料を用いて表現できるかということではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況、相手等を明確に設定した上で、課題を解決するために何を、どのように伝えたかを評価する。また、その中で、既習表現や教科書にある表現を効果的に活用するなど、よりよく伝えようとしている状況を積極的に評価していく。

(3) 評価に基づく改善のポイント

導入と習得のタイミングは必ずしも一致しないという言語習得の特性を受けて形成的評価と総括的評価の時期を工夫する。評価を行う際に、例えば、即興性が求められるやり取りの活動では発話量、準備することができるスピーチ等の活動では発話の正確性を重視するなど、活動の特性によって評価の視点を工夫することが考えられる。また、活動のねらいによって、流暢さと正確さのバランスを考えて評価をする。

(4) 学習指導案の実際

○ 本時の展開

目標 日本とアメリカの学校のどちらの方が好きか理由とともに伝え合い、結果をALTに報告することができる。

準備 絵カード、振り返りシート

展開（7／8）

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 15分	<p>○あいさつ・歌</p> <p>○即興チャット テーマ『休日の生活』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師とALTのやり取りを、自分のチャットで使える表現や話題がないかを考えながら聞く。 ・教師とやり取りをしながら休日の生活について表現する。 ・ペアでテーマについて会話をする。 <p>予想される生徒の発話 I get up at 8 and watch TV with my brother. *We game together. (*は不完全な文であることを表す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りと生徒のつぶやきから話を広げる。 ・生徒の活動のモデルとなるように表現等を工夫する。 ・数名の生徒と同様のやり取りを行い、インプットを充実させることで次のペア活動に生かす。 ・会話の途切れたペアには、例を示したり質問したりして会話の継続を促す。
	<p>「中間指導の考え方」 目的や場面、状況等を明確にして言語活動を行った後で、発話内容や表現について取り上げ、フィードバックや練習を行う。その後、相手を変えて同様の活動を行う。この過程を取り入れることで、生徒の活動状況から生まれた必要感のある効果的な指導や練習が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間指導を受け、表現を広げる。 ・ペアを変えて会話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面・言語面に対してフィードバックして流暢さと正確さの両面にアプローチする。 ・中間指導が効果的であったか、注視する。

	<p>○本時の目標を理解する。</p> <p>日本とアメリカの学校では、どちらが人気があるかを調査し、ALT に理由とともに報告しよう。</p> <p>○ティーチャーズトーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師と ALT の話を聞き、学校の仕組みや風習の違いを知る。また、どちらが好きかを教師とのやり取りの中で表現する。 教師とのやり取りの中で、日本とアメリカの学校の特徴を振り返る。 日本の学校生活について自分の学校生活を振り返りながら、英語で表現する。 <p>○個人の考えをグループで伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをクラスメイトと伝え合い、相手の考えを知る。 <p>○中間指導を受け、表現を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよく相手に伝わるような工夫や改善点を発見する。 <p>○個人の考えをクラス全体でシェアする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALT とのやり取りの中で、理由とともに自分の考えを伝える。 自分の考えに理由（根拠）を持つ。 <p>○日本とアメリカの学校のどちらかに投票する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板に個人で付箋を貼って投票する。 結果を ALT に伝え、他の生徒の理由を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT に、出身国の学校と日本の学校の仕組みの違いを聞き、生徒の活動のきっかけとする。 生徒が自分事として捉えられるよう、生徒の経験を想起できるようなやり取りにする。 ピクチャーカードや映像資料を用い、思考の一助とする。 正確性が不十分な点があっても、意味が伝わるかどうかを重視する。 <p>○日本とアメリカの学校の仕組みの違いを黒板に箇条書きでメモしていく。</p> <p>○生徒同士の活動に生きるよう、十分なインプットを意識する。</p> <p>【評価基準】</p> <p>a: 場面や状況にふさわしい表現を用いて、アメリカと日本の学校に対する自分の考えを理由とともにクラスメイトに伝えている。</p> <p>b: アメリカと日本の学校に対する自分の考えを伝えている。</p> <p>c: 「b」を満たしていない。</p> <p>○数名の生徒の発表から、内容面と言語面をさらに広げられるよう、フィードバックをする。</p> <p>○学習者用PCで生徒のやり取りを録画する。</p> <p>○場面や状況にふさわしい表現を用いて、アメリカと日本の学校の仕組みの違いやそれらに対する自分の考えをクラスメイトや ALT と伝え合っている。</p> <p><観察および録画データ分析></p> <p>○友達の見解等を踏まえ、聞き手に配慮しながら、自分の考えや感想を主体的に伝え合おうとしている。<観察></p> <ul style="list-style-type: none"> なるべく多くの生徒の考えを引き出し、この後の投票に根拠を持たせていく。 <p>○学習者用 PC を活用し、登録フォームやホワイトボードのアプリ等を使って投票することも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数名の生徒を指名し、理由を述べさせる。
<p>展開 25分</p>	<p>○アメリカの学校生活について、教科書の内容を生かして表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師とやり取りしながら、日本とアメリカの学校のどちらが好きかを理由とともに伝える。 <p>○個人でのやり取りの中で、日本とアメリカの学校の特徴を振り返る。</p> <p>○日本の学校生活について自分の学校生活を振り返りながら、英語で表現する。</p> <p>○アメリカの学校生活について、教科書の内容を生かして表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師とやり取りしながら、日本とアメリカの学校のどちらが好きかを理由とともに伝える。 <p>○個人でのやり取りの中で、日本とアメリカの学校の特徴を振り返る。</p> <p>○日本の学校生活について自分の学校生活を振り返りながら、英語で表現する。</p>	<p>○授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えたかったが伝えられなかった表現を振り返りシートに書く。 <p>○活動中に使用した英語に対して、正確性を高めるために、言語面へのフィードバックを行う。</p> <p>○次回の予告</p> <p>○あいさつ</p>

予想される生徒の発話
We have school uniform and school lunch.

板書の例を参照

予想される生徒の発話
I like American school. Lunch is free.
I eat fruit. How about you?

中間指導の例を参照

編 P216 指導計画
作成の留意点(2)

板書の例を参照

板書の例を参照

○ 中間指導の例

	発話	ねらい
教師	Do you like American schools or Japanese schools? Why?	内容面にフィードバックする。 (話題や意味にフォーカスする。)
生徒A	I like American school. Lunch is free. I eat fruit.	
教師	I see. In American schools, students eat lunch in the cafeteria. Some students bring their own lunch.	生徒の意見に共感する。
	What food can you eat there? Only fruit? What do you like to eat for lunch?	話題を広げる・深める。①
生徒A	I eat fruit, snacks, ...あと、rice ball?	生徒が自分の英語を試す。
教師	Oh, you eat rice balls.	
	How about you, 生徒B? Do you like American schools or Japanese schools?	話題を広げる・深める。② ※他生徒の考えから学ぶ。
生徒B	Japanese school like. Because I like my room. America, student don't have room.	
教師	That's a nice idea! In Japan, we have our own classrooms but in America, they don't. So you like Japanese schools.	生徒の発話を言い換える。
生徒B	And school... 制服がいい。	
教師	Oh, school uniforms? You like school uniforms.	生徒の意見をひろう。
	Who likes school uniforms?	話題を広げる・深める。③
生徒C	I like my 服.	
教師	Clothes. You like your clothes. Why?	
生徒C	Because cute.	生徒が自分の英語を試す。
生徒D	そっか。Cute. 使えそうだ。	友達の英語から気付く。
教師	So, you don't think Japanese school uniforms are cute. I see. For me, I like Japanese schools because I can stay in my classroom and the school lunches are delicious.	生徒の意見を受け入れながら、自分の考えを伝え、モデルを示す。
	Let's think about what you said. 生徒A said "I eat fruit." What do you think about this English?	言語面にフィードバックする。 (語彙や文法にフォーカスする。)
生徒B	can を入れると、おやつが食べたい気持ちをもっと伝わりそう。	
教師	I can eat fruit. That's a nice idea. Any other ideas?	文法の規則や言葉の働きに注目させる。
生徒A	My favorite food is fruit.	
教師	I see. Or I like fruit. We can say many different things.	異なる表現でも同じ内容を伝えられることへの気付きを与える。
	All right. Do you have any questions for your classmates?	ここまでのやり取りの理解を確認する質問をする。
	Let's try again with a new partner.	内容面と言語面へのフィードバックを終え、再度トライさせる。

○ 板書の例

相手の情報や特徴を具体的に示し、相手意識を高める。

やり取りを通して引き出した生徒の考えや意見を取り上げる。

生徒の発話から文法的に注目すべきものを取り上げる。

Today's Goal: 日本とアメリカの学校では、どちらが人気があるかを調査し、ALTに理由とともに報告しよう。

伝える相手

- ALT (○○○出身)
- 日本とアメリカの学校には詳しくない。
- 生徒の新しい一面を発見することが好き。

学校の写真

ピクチャーカード

ピクチャーカード

ピクチャーカード

内容面

【Japanese schools】

特徴

- ・ school lunch
- ・ same classroom
- ・ school uniform
- ・

理由

- ・ good, balanced menu
- ・ you can relax
- ・

【American schools】

特徴

- ・ bring your own lunch
- ・ different classrooms
- ・ no uniforms
- ・

理由

- ・ favorite food
- ・ fun
- ・

言語面

(文法・語彙)

I eat fruit.
⇒ I **can** eat fruit.
※助動詞+動詞の原形

(語順)

Japanese school like.
⇒ I like Japanese schools.

(言い換え)

I eat fruit.
⇒ My favorite food is fruit.

視覚的にもイメージをもたせ、発話の広がりをもたす。

○ パフォーマンステストの例（3観点を評価する中で「思・判・表」と「態度」を一体で評価する例）

(1) 内容

「自分の考える理想の学校」を、自分の考えや理由とともに即興で伝え合う。

(2) 準備する課題

次の指示をテスト時に生徒に配付する。

「本課では日本とアメリカの学校の制度や学校生活の違いを学びました。それらを参考にして、違いに触れながらあなたの考える理想の学校をあなたの考えや理由とともに伝えてください。」

(3) 採点の基準

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて、以下の三つの条件をすべて満たしていれば「a」、三つの条件のうち二つを満たしていれば「b」、「b」を満たしていないものは「c」とする。

条件1：日本とアメリカの学校の制度や仕組みの違いに触れながら、説明している。
 条件2：理想の学校についての考えや理想とする理由を説明している。
 条件3：相手の考えを求めたり、話題を広げたりしようとしながら対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	課題を解決するために正しい英文で話している。	自分の考えや理由を詳しく述べたり、学んだ英文を効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えや理由を詳しく述べたり、学んだ英文を効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
b	課題を解決するためにコミュニケーションに支障のない程度の英文で話している。	三つの条件を満たしてやり取りしている。	三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

(4) 生徒のやり取り例及び評価結果

ア) 生徒のやり取り例（※下線は、誤りがある発話や文として不十分な発話であることを示している。）

ALT	What is your best school? Tell me your idea, please.
Student	<u>I can't lunch every day.</u> [条件2] I want school lunch.
ALT	I see. Any other ideas?
Student	I like ... shirt. (と言って、服を指しながら英語で何と言えばよいか既存の知識から考えている。)
ALT	Oh! You like shirts or clothes?
Student	Clothes! (やり取りから服を何と言えばよいか推測できている。) Yes. I like my clothes... very much. I don't need school uniforms. [条件2] How about you? [条件3]
ALT	I like bringing my own lunch. I like cooking.
Student	I see. And <u>do you want my classroom?</u>
ALT	Yes, I do. Do you like your classroom? Or do you like going different rooms every lesson?
Student	No. <u>Many classrooms.</u> <u>It is enjoy.</u> [条件2] This is my best school.

全体を通して「条件1」を満たしていると判断できる。

イ) 採点の結果

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	a	a
課題を達成するためにコミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて英話している。	自分の考えや理由を詳しく述べたり、学んだ英文を効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えや理由を詳しく述べたり、学んだ英文を効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。

3 学習指導案の事例

＜事例5＞ 「やり取りを通して書く内容を充実させること」をねらった事例 第3学年 「日本の魅力について伝えよう」書くこと イ

- (1) 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項等
本単元では、「相手に効果的に伝えるには」という視点を、単元を貫く課題とする。あるテーマを書くことについて、教師と生徒または生徒同士のやり取りを通して話題が広がるようにしたり、効果的な表現をクラスで共有したりする。相互に原稿を推敲し、よりよいものにしていくため、教科書をモデル文として構成や表現について理解する。また、言語面と内容面の両方にバランスよく焦点を当て、繰り返して指導する場面を設ける。
- (2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等
書くことに焦点を当てるため、聞くことや読むことについて、記録に残す評価（総括的評価）は行わない。書くことについても、記録に残す評価は単元の後半に行うこととし、単元の前半は、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことに注力する。
- (3) 評価に基づく改善のポイント
評価を受けて、目標を十分に達成したよい例をクラスで共有し、目標を達成できなかった生徒に対する手立てとしたり、さらによりパフォーマンスへとつなげたりするための手立てとしていく。
- (4) 学習指導案の実際

第3学年○組外国語科学習指導案

令和○年○月○○日（○）第○校時
場 所 3年○組教室
指 導 者 教諭 ○○ ○○

- 1 単元名 Lesson ○ 日本の魅力について伝えよう
- 2 単元について

本単元では、ALTに「日本の魅力」を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書くことができることを目指している。題材は、日本の伝統的なものについて、主人公が外国人の友達に紹介している場面である。他の国や地域と比べながら、日本のよさや魅力について再発見し、興味関心を持たせるとともに、現在分詞や過去分詞を使い、人やものについて詳しい説明を付け加えることができるようにしたい。さらに、日本の魅力をALTに理解してもらえるように発信することを意識させ、事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書くことができる力を養う。

単元について、学習内容を整理した上で、教材を活用して生徒にどのような力をつけたいかを記述する。

- 3 生徒の実態について

本学年の生徒は、小学校在学時に英語でコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を培ってきた。そこで、中学校第1学年から英語やその背景にある文化や社会を理解し、コミュニケーションの目的や場面、状況等を考慮して、自分の思いや考えを、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理しながら表現できるように指導してきた。埼玉県学力・学習状況調査における令和○年度と令和○年度の学力の推移をみると、本校は学力を伸ばした生徒の割合が県に比べて高く、学力が伸びなかった生徒の割合が県に比べて低い（表）。学力レベルも9-Aから11-Cに伸びている。また、令和○年度全国学力・学習状況調査における生徒質問紙では、「英語の勉強が好きだ（含：どちらかといえば）」という生徒が72.6%（全国平均56.0%）、「英語の授業の内容がよくわかる（含：どちらかといえば）」という生徒が80.0%（全国平均66.0%）と多いことも、よい結果の裏付けとなっている。しかし、全国及び県学力・学習状況調査の結果を見ると、書くことの正答率は、他の領域に比べて低い。自分の考えを何とか伝えようとする意欲が見られたが、語や文法事項等を正しく理解して書くことに課題があり、正答にはいたらなかったためであると考えられる。そこで、本単元においては、目的や場面、状況等を明確に設定した上で、コミュニケーションに支障をきたすような誤りを修正して、定着が図られるよう改善したい。また、前述のように英語への関心や意欲は高く、お互いに助け合いながら、最後まであきらめずに活動に取り組む姿が見られる。よって、

グループワークやペア活動を通して学び合い、教科書をしっかり読み取らせ、本文をモデルとして構成の仕方について考えさせたい。さらに、書く内容について、やり取りを通して内容を膨らませ、言語面と内容面の両方について共有する活動を授業の中で展開し、日本の魅力を ALT に理解してもらえるように、事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書くことができる力を養う。

表 生徒の学力の伸び
(令和〇年度埼玉県学力・学習状況調査より)

	学力を伸ばした 児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった 児童生徒の割合 (%)
埼玉県	84.1	15.9
本 校	88.0	12.0

外国語学習という点から生徒の実態を捉える。各種学力・学習状況調査の結果や事前アンケート、当該単元で学習する言語材料と関連する既習の言語材料についての生徒の学習状況などを参考にして記述する。その上で、目標に迫るために、どのような指導上の工夫をするかを記述する。

目標は、生徒を主語として「～できる」という能力表記で記述する。評価規準は生徒を主語として「～している」という表記で生徒が目標を達成している状況を記述する。

4 単元の見どころ

ALT に「日本の魅力」を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書くことができる。

- ・分詞による後置修飾の特徴やきまりを理解し、日本の魅力について考えたことや感じたことなどを現在分詞、過去分詞の後置修飾などを用いて書く技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- ・ALT に日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどについてまとまりのある文章を書いている。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ALT に日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどについてまとまりのある文章を書こうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り・発表]」については、目標に向けての指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと (書)	<p><知識></p> <p>①現在分詞、過去分詞の後置修飾の特徴やきまりを理解している。</p> <p><技能></p> <p>②日本の魅力について考えたことや感じたことなどを現在分詞、過去分詞の後置修飾などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>ALT に日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどについてまとまりのある文章を書いている。</p>	<p>ALT に日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどについてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>

6 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）

時	◆ねらい ○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	<p>◆単元の目標を理解する。</p> <p>○日本の魅力についてのALTの話ややり取りを聞き、相手意識をもつ。</p> <p>編 P216 指導計画作成の留意点(3)</p> <p>国語科や社会科など他の教科等で学習した内容を取り上げることできる。</p> <p>○メモ等で自分の考えを整理し、ペアで対話をする。</p> <p>○話したことを基に相手意識をもって書く。</p>				<p>指導の手順のポイント</p> <p>①教師とALTの日本の魅力(季節、伝統的なもの、お土産、場所、食べ物など)についてのやり取りを聞いてALTの情報を理解する。</p> <p>②日本の魅力について教師とやり取りをする。</p> <p>③マッピングで自分の考えを整理し、ペアで対話をする。</p> <p>④教科書などを使ってよりよく伝えるための表現を確認したり、共有したりする。</p> <p>⑤再度ペアで対話をする。</p> <p>※③～④は必要に応じて何度か繰り返す。</p> <p>⑥話したことを基に書く。</p> <p>⑦振り返りカードに、相手意識という視点を書き、振り返りを行う。</p>
2	<p>◆ALTに紹介したい「日本の魅力」について構成を考えて自分の考えを書く。</p> <p>○教科書の英文を通して文章の構成と現在分詞の後置修飾の使い方を理解する。</p> <p>○文章の構成を確認する視点でお互いの英文を読む。</p> <p>○論理的な構成を意識して英文を書く。</p>				
3	<p>◆ALTに紹介したい「日本の魅力」について再構築しまとめた英文を書く。</p> <p>○教科書の英文を通して文章の構成と過去分詞の後置修飾の使い方を理解する。</p> <p>○論理的な構成を確認する視点でお互いの英文を読む。</p> <p>○論理的な構成を意識して英文を書く。</p>				
4	<p>◆ALTに紹介したい「日本の魅力」について、正しく書く。</p> <p>○教科書の英文を通して現在分詞や過去分詞の後置修飾の構造や意味を理解する。</p> <p>○文法の正しさを確認する視点でお互いの英文を読む。</p> <p>○英文を正しく書き直す。</p>				
5	<p>◆クラスメイトが書いたALTに紹介したい「日本の魅力」を読み、コメントを書く。</p> <p>○紹介するためのポイントを基準に、「日本の魅力」を読み合う。</p> <p>○ALTに「日本の魅力」を読んでもらい、感想をもらう。</p> <p>編 P216 指導計画作成の留意点(5)</p>				
6 本時	<p>◆ALTに紹介したい「日本の学校の魅力」を書く。</p> <p>○日本の学校の魅力についてのALTの話や、やり取りを聞き、相手意識をもつ。</p> <p>○メモ等で自分の考えを整理し、ペアで対話をする。</p> <p>○話したことを基に相手意識をもって書く。</p> <p>編 P216 指導計画作成の留意点(4)</p>		書	書	<p>◎ALTに日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書こうとしている。<観察></p> <p>◎ALTに日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書いている。<ワークシート分析></p>
後日	ペーパーテスト		書	書	<p>◎現在分詞、過去分詞の後置修飾の特徴やきまりを理解している。</p> <p>◎日本の魅力について考えたことや感じたことなどを現在分詞、過去分詞の後置修飾などを用いて伝える技能を身に付けている。</p> <p>◎ALTに日本の魅力を紹介するために、日本に関する事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書いている。</p>

外国語

7 本時の展開

目標 ALT に紹介したい「日本の学校の魅力」について、事実や気持ちなどをまとまりのある文で書くことができる。

準備 ワークシート、振り返りカード

○ 展開 (6 / 6)

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	<p>○挨拶をする。</p> <p>○日本の学校の魅力について教師 ALT のやり取りを聞く。</p> <p>日本の学校で働く新しい ALT に向けて、日本の学校行事や学校での日常生活についてやり取りし、話題に興味をもたせる。</p>	<p>・全体で挨拶をする。</p> <p>・授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。</p> <p>・題材として、学校行事や学校生活について触れる。</p>
	<p>教師と ALT の対話例</p> <p>ALT: Next year, a new ALT from the U.K. will come to Japan. She has never taught in Japanese junior high schools before. So she wanted to know about Japanese schools. What should I tell her?</p> <p>JTE: Let me see. In Japan, there are school lunches that use local food. So she can enjoy Japanese food.</p> <p>ALT: Yes. She likes Japanese food very much, so she will like it.</p> <p>JTE: I hope so. There are also some interesting school events. For example, we have chorus contests or sports day.</p> <p>ALT: I see. In the U.K. there aren't many school events. I think she will be interested in them. Teamwork is important for Japanese events. That is a good point.</p> <p>JTE: Yes. Japanese schools have a lot of interesting things. Now everyone, what do you think is interesting about Japanese schools?</p>	
	○本時の目標を把握する。	・本時の目標を提示する。
ALT に「日本の学校の魅力」について紹介しよう。		
	<p>○教師と対話をする。</p> <p>○マッピングで自分の考えを整理する。</p>	<p>・教師から生徒に質問をして対話の内容を広げる。</p> <p>・キーワードでメモを取るように促す。</p>
展開 30分	<p>○紹介したい日本の学校の魅力についてペアで対話をする。</p> <p>○教師と対話をする。</p> <p>○教師との対話を参考にして、さらにペアで対話の内容について話題を広げる。</p>	<p>・生徒のやり取りを聞き、内容を効果的に伝えている表現や共通する誤りを取り上げる。</p> <p>・対話につまる生徒には、アドバイスをする。</p> <p>・机間指導等を通して、複数の生徒のマッピングを学習者用 PC で撮影する。</p> <p>・マッピングを基に生徒と対話をする。</p> <p>・対話している生徒のマッピングを大型ディスプレイに写し、すべての生徒が共有できるように工夫する。</p>
	<p>○対話がどんな内容であったか、よりよく伝える表現を確認し、共有する。</p>	<p>・対話を聞いている生徒が質問するように促す。</p>
<p>教科書にある表現を使っている例を示して、教科書をもう一度読み直させるなど活用を促す。</p> <p>・マッピングで広げた内容を確認する。</p> <p>・内容をよりよく伝えるための表現を確認する。</p>		

	<p>「言語面の指導」のポイント</p> <p>①言いたいのに言えない表現を知っている言語材料で言いかえる。</p> <p>②語順を正確にする。</p> <p>③1語2語の言葉を文にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたかったのに言えなかった表現や、共通してみられる誤りを取り上げる等、言語面の指導を行う。 ・多様な考え方に対する理解を深めながら聞き、互いに感想を伝え合う。また、発表後は拍手をするなどして、互いの意見を認め合うようにする。
	<p>○相手を変えて、再度ペアで対話を行うことを繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のやり取りを聞いて、内容を効果的に伝えている表現を共有したり、共通してみられる誤りを取り上げて指導したりする。 ・板書により、内容を効果的に伝えている表現を取り上げて共有し、内容面、言語面の両方から指導をする。
	<p>○対話の内容をもとに書く。</p>	<p>◎「日本の魅力」について日本の学校をALTに紹介するために、事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書こうとしている。〈観察〉</p> <p>◎「日本の魅力」について日本の学校をALTに紹介するために事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書いている。〈ワークシート分析〉</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>○単元を振り返って学んだことを書く。</p> <p>生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。また、よい例はクラス全体で共有し、振り返りの視点や学習方法のヒントとする等、生徒が自らの学習を振り返り、学習改善につなげられるように支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTにわかりやすく日本の学校の魅力について紹介できたかという視点で、振り返りカードに書かせる。
	<p>○クラスメイトの書いた英文をクラウド上に保存し、家庭学習としてクラスメイトのデータにコメントを入れてくる。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題を提示する。 ・全体で挨拶をする。

○ パフォーマンステスト、ペーパーテスト例

「思考・判断・表現」を評価する問題においては、当該単元で扱った言語材料（以下「特定の言語材料」）を必ず使用しなければならないわけではない。一方で、「知識・技能」の問題においては、特定の言語材料が必然的に使用されるよう、コミュニケーションの目的や場面、状況等の設定を工夫することが重要である。

主に「知識・技能」を評価する問題例

<p>以下は公園でのAとBのやり取りです。対話の流れに合うように、()内の語を適切な形に変えて書きなさい。</p> <p>A: Can you see that boy? B: Which boy do you mean? A: I mean the boy (play) soccer. B: Oh, he is my friend's brother.</p>	<p>「知・技」を評価する問題であっても、場面等を設定することが重要である。その上で、文脈から判断して知識を活用することができるかを評価する問題を作成する。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

(ア) 採点の基準

<p>現在分詞の後置修飾の特徴やきまりを理解しているもの。 (正答) playing</p>	<p>○</p>
<p>現在分詞の後置修飾の特徴やきまりを理解していないもの。 (誤答例) plays / played / 無回答</p>	<p>×</p>

(イ) 本問題の特徴

- ・文脈を伴う問題である。問うている箇所 (the boy () soccer) だけに注目しても正解を導き出すことはできず、文脈から正解を導き出すことができるか否かを問うている。
- ・関連した文法事項との使い分けをさせる問題である。「評価の対象としている文法事項 (現在分詞の後置修飾)」と「当該文法事項と関連のある文法事項 (現在形、過去形)」の使い分けを文脈に応じて判断できるか否かを問うている。

主に「思考・判断・表現」を評価する問題例

あなたの学校に初めて日本で英語を教える ALT の先生が来ることになりました。日本についてあまり知らないその先生に「日本の魅力ガイドブック」を作り、伝えたい「日本の魅力」について、40 語程度の原稿を書くことになりました。あなたが伝えたい「日本の魅力」について、日本をあまり知らない人にも伝わるように、他の国や地域と比べて説明し、おすすめする理由を複数挙げて書きなさい。

どのような相手に、何のために、どのような内容を伝えるのか等、コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確に設定することで、「思考力、判断力、表現力等」を働かせることが求められる問題の作成につながる。

(ア) 採点の基準

上記の課題を解決するには、次の①～③の条件を満たすことが必要であると考えられる。これらの条件に照らし合わせ、下のように採点の基準を設定し評価することが考えられる。

条件

- ①おすすめのもの（日本の魅力）について説明している。
- ②他の国や地域と比べながら説明している。
- ③おすすめする理由を複数書いている。

課題を解決するためには、どのような条件を満たす必要があるのかを明確にして、採点の基準を設定する。

	「思考・判断・表現」の 評価結果
条件①、②、③を満たし、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いているもの。	a
条件①ともう一つの条件を満たし、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いているもの。	b
「b」を満たしていないもの。	c

(イ) 本問題の特徴

- ・目的や状況、場面を明確に設定し、単元を通して指導してきたこと（相手意識や比較、理由を述べること）を踏まえて内容を問う問題である。
- ・当該単元で扱った言語材料を必ず使用しなければならないわけではなく、課題を解決するためにコミュニケーションに支障をきたさない英語で書かれているかを問う問題である。

○ 観点別学習状況の評価の進め方

以上のペーパーテスト（中間テスト）の結果に、他の単元における評価結果（ワークシート等への記述内容）と期末テストを勘案し、2学期の「書くこと」の評価を総括した例を以下に示す。なお、以下に示すのは、6課及び8課において「書くこと」について記録に残す評価を行い、7課及び9課では「書くこと」について目標に向けての指導はしたが、「記録に残す評価」は行わなかった場合の例である。

2学期の「書くこと」の評価の例

	6課	7課	中間テスト	8課	9課	期末テスト	「書くこと」 の 評価結果
知	b		(a~c)	(a~c)		(a~c)	(a~c)
思	b		b	b		b	b
態	b		b	b		b	b

*上記の6課、8課及び2学期中間テスト、期末テストにおける「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現」と一体的に評価した場合の例を示している。

2学期の観点別学習状況の評価の例

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	2学期の 観点別評価	評定
知	(a~c)	(a~c)	(a~c)	(a~c)	(a~c)	(A~C)	(1~5)
思	(a~c)	(a~c)	(a~c)	(a~c)	b	(A~C)	
態	(a~c)	(a~c)	(a~c)	(a~c)	b	(A~C)	

*上記は各領域の評価結果を観点別評価に総括する方法の例である。なお、ここで示すのは2学期で総括する方法であるが、学年末に指導要録にも活用することが可能であると考えられる。

第5 外国語科における学習評価への総括例

※ 詳細はP7参照

1 外国語科における学習評価についての基本的な考え方

外国語科においては、五つの領域それぞれについて、観点別学習状況の評価を行う。指導と評価の計画において各単元で設定した評価規準に照らして、各領域の評価結果を観点別評価に総括する。学期を見通して、五つの領域のバランスを考えて評価できるようにすることが大切である。

2 単元～学期末における領域及び観点ごとの評価の総括について

各単元において、目標として扱う領域について、設定した評価規準に照らして記録に残す評価を観点別に行う。学期末においては、各単元で得られた評価結果を領域ごとに観点別に総括する。その際、評価結果については、課題内容や評価時期、重点の置き方等によって軽重をつけて扱うことも考えられるが、教科部会等で十分に共通理解を図り、生徒に説明できるようにしておく必要がある。領域別の評価結果については、生徒の学習状況を分析的に捉え、どの領域に課題があるか等、具体的に学習や指導の改善につなげていくものとする。

3 学期末・学年末における観点別学習状況の評価の評定への総括について

学期末や学年末に観点別学習状況の評価（A～C）を評定（1～5）に総括する際には、学年間や教科間で格差が生じないように、総括する方法について、あらかじめ各学校において決めておく必要がある。また、評価結果を受けて、その背景にある生徒の学習状況について適切に捉え、指導改善や学習改善につなげていくことが大切である。

観点別学習状況の評価の評定への総括例（ある生徒の例）

【単元ごとの総括】

単元	6課 (主に「書くこと」を目標として扱う単元)						7課 (主に「聞くこと」と「話すこと[やり取り]」を目標として扱う単元)						
	1	2	6	7	8	評価結果	1	2	6	7	8	9	評価結果
領域				書	書	書			聞	聞	や	や	聞 や
知・技				b		b			a		c		a c
思・判・表					b	b				b		c	b c
態度					b	b				b		c	b c

【各学期における総括】

領域・観点	評価場面	6課	7課	中間テ	パフォーマンス テスト①	8課	9課	期末テ	パフォーマンス テスト②	学期の 評価結果
		聞くこと	知・技	a	b			b	b	
	思・判・表	b	b			b	b			b
	態度	b				b	b			b
読むこと	知・技			b		b		b		b
	思・判・表			b		b		b		b
	態度					b		b		b
話すこと [やり取り]	知・技		c		c					c
	思・判・表		c		c					c
	態度		c		b					b
話すこと [発表]	知・技						c		c	c
	思・判・表						c		b	b
	態度						b		b	b
書くこと	知・技	b		b		b		b		b
	思・判・表	b		c		b		b		b
	態度	b				b				b

【学期の評価結果から評定へ】

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別 評価	評定
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3
思考・判断・ 表現	b	b	c	b	b	B	
主体的に学習に 取り組む態度	b	b	b	b	b	B	

※各観点と領域別に総括した評価結果の数の比率から、学期末の観点別評価を総括した例である。

外国語

<外国語の目標>

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

<評価の観点及びその趣旨>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。</p>	<p>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

<内容のまとめりと目標と言語活動>

	目標	言語活動
聞くこと	<p>ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p>	<p>(7) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。</p> <p>(4) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。</p> <p>(6) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。</p> <p>(5) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明を聞いて、概要や要点を把握する活動。またその内容を英語で説明する活動。</p>
読むこと	<p>ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p>	<p>(7) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。</p> <p>(4) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。</p> <p>(6) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p> <p>(5) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p>
話すこと「やり取り」	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p>	<p>(7) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>(4) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>(6) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。</p>
話すこと「発表」	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</p>	<p>(7) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。</p> <p>(4) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。</p> <p>(6) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>
書くこと	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</p>	<p>(7) 趣味や好き嫌いなど、自分の関する基本的な情報を語句や文で書く活動。</p> <p>(4) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。</p> <p>(6) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>(5) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。</p>

観点	内容	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の基本的な形
知識・技能	聞くこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>[知識] 【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 【言語材料】などを活用して、【話題】について【話された文等】の内容を聞き取る技能を身に付けている。</p>
	読むこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>[知識] 【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 【言語材料】などを活用して、【話題】について【書かれた文等】の内容を読み取る技能を身に付けている。</p>
	話すこと「やり取り」	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>[知識] 【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] (ア) 【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を即興で伝え合っている。 (イ) 【事柄・話題】について、【内容】を整理し、【言語材料】などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 (ウ) 【事柄・話題】について、聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合っている。</p>
	話すこと「発表」	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>[知識] 【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] (ア) 【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を即興で話している。 (イ) 【事柄・話題】について、【内容】を整理し、【言語材料】などを用いて話している。 (ウ) 【事柄・話題】について、聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて話している。</p>
	書くこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。</p>	<p>[知識] 【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] (ア) 【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を正確に書いている。 (イ) 【事柄・話題】について、【内容】を整理し、【言語材料】などを用いて書いている。 (ウ) 【事柄・話題】について、聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて書いている。</p>

観点	内容	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の基本的な形
思考・判断・表現	聞くこと	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題についてははっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	(ア) 【目的等】に応じて、【話題】について【話された文等】から、必要な情報を捉えている。 (イ) 【目的等】に応じて、【話題】について【話された文等】を聞いて、概要を捉えている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【話題】について【話された文等】を聞いて、要点を捉えている。
	読むこと	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれている短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	(ア) 【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】から、必要な情報を捉えている。 (イ) 【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、概要を捉えている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、要点を捉えている。
	話すこと「やり取り」	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	(ア) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、【内容】を即興で伝え合っている。 (イ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。
	話すこと「発表」	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	(ア) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、【内容】を即興で話している。 (イ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 (ウ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて話している。
	書くこと	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。	(ア) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、【内容】を書いている。 (イ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文を書いている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて書いている。

観点	内容	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の基本的な形
主体的に学習に取り組む態度	聞くこと	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	(ア) 【目的等】に応じて、【話題】について【話された文等】から、必要な情報を捉えようとしている。 (イ) 【目的等】に応じて、【話題】について【話された文等】を開いて、概要を捉えようとしている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【話題】について【話された文等】を開いて、要点を捉えようとしている。
	読むこと	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。	(ア) 【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】から、必要な情報を捉えようとしている。 (イ) 【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、概要を捉えようとしている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、要点を捉えようとしている。
	話すこと「やり取り」	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて伝え合おうとしている。	(ア) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合おうとしている。 (イ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。
	話すこと「発表」	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。	(ア) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、即興で話そうとしている。 (イ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。
	書くこと	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。	(ア) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、【内容】を書こうとしている。 (イ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文を書こうとしている。 (ウ) 【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

【言語材料】 当該単元で扱う言語材料が入る。

【話題・事柄】 当該単元を中心とする言語活動で扱う話題等が入る。

【目的等】 当該単元を中心とする言語活動において設定する目的や場面、状況を「〇〇に応じて」「〇〇するよう」「〇〇するために」などの形に当てはめる。

【内容】 当該単元の言語活動で扱う【話題・事柄】に関する事実や自分の考え、気持ちなどが入る。

【話された文等】 「(【話題】について) 話された文」「(【話題】について) のアナウンス」「(【話題】について) のメッセージ」「(【話題】について) の説明」等が入ることが考えられる。

【書かれた文等】 「(【話題】について) 書かれた文章」「(【話題】について) の物語」「(【話題】について) の広告」「(【話題】について) の手紙」等が入ることが考えられる。